

Q&A 先月の技術相談から

共同研究・受託研究について

Q: 我が社の持つアイデアについて、研究してもらうことはできますか？

A: 林産試験場には、技術の向上や製品開発・改良を希望する企業等（原則として道内に生産拠点をもつ法人、市町村、団体など）からの依頼によって行う研究制度が2種類あります。

1つは、林産試験場と企業等とが知識・技術・ノウハウを持ち寄り、共同で研究を行う「共同研究」、もう1つは、林産試験場が企業等に代わって研究を行う「受託研究」です。

手続きの流れは以下のとおりです。

①事前調整

まずはご相談ください。内容によっては既存の知見で解決する場合がありますし、既に実用化されている事例があるかもしれません。希望される研究内容によっては、林産試験場で実施できない場合や、共同研究・受託研究以外の技術支援制度（依頼試験、技術指導等）で対応可能な場合があります。

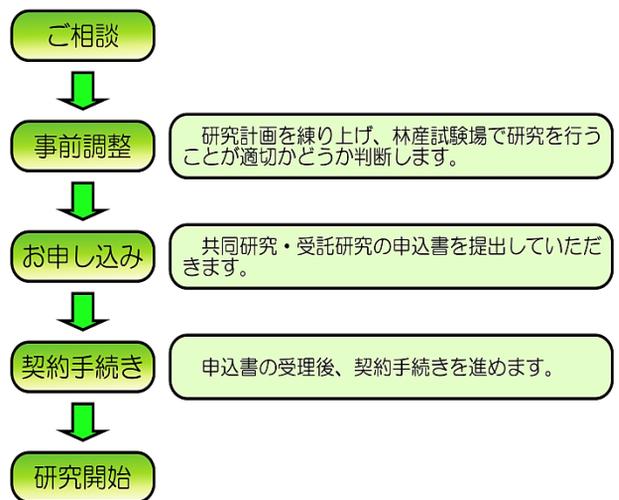
共同研究・受託研究を行う場合でも、どのような内容で研究を行うのか、それは共同研究がいいのか、受託研究がいいのか、あるいはどのくらいの期間がかかるのか、どのくらいの費用がかかるのか等の打ち合わせが必要になります。

打ち合わせを行いながら、より具体的な研究計画を練り上げていきます。

②契約手続

研究計画がまとまると、次に林産試験場内部で研究終了後の成果の活用も含めて検討し、研究を行うことが適切と判断されたら申込書を提出していただきます。

申込書の受理後、速やかに契約手続きを進めます。契約締結後、研究費を入金していただくことになります。申込書の提出から研究開始まではおおよそ1か月ほどかかります。



【図 手続の流れ】

【表 共同研究・受託研究の一例】

共同研究	
地域資源の活用に応じた新ブナシメジの開発	H24-25
早生樹「ヤナギ」を活用したシイタケ栽培技術の検討	H24-25
国産材および植林木を原料としたMDFの検討	H24-26
木造公共建築の促進に向けた課題の把握と対応策の検討	H25
切削式粉砕機による林地残材活用技術の検討	H25
食用きのこを活用した畜産廃棄物の生物変換システムの開発	H25-27
受託研究	
屋外における単板積層材の耐候性能および耐朽性能に関する検討	H23-25
道南スギを用いた防火木材の製造技術の開発	H25
枠組壁工法住宅における道産人工林材の有効利用法の検討	H25
競争力の高い木製防護柵の開発	H25
北海道産白樺を用いた吸音パネル材の開発	H25
レーザーによる厚板の切断条件に関する検討	H25

今年度（11月末現在）は、共同研究を15件、受託研究を10件行っています。一例を表に示します。研究期間は数ヶ月のものから3年間にわたるものまで研究内容に応じて様々です。一つの研究で得られた成果から、さらに発展させて新たな研究を始めるといふ事例も見られます。

共同研究・受託研究は、林産試験場の研究成果や技術を活用していただく貴重な機会であるとともに、

北海道の木材関連産業の振興にもつながることから、これからも積極的に取り組んでいきたいと考えています。今後も、共同研究・受託研究だけでなく、林産試験場の様々な支援制度を是非ご活用ください。

●林産試験場ホームページ・技術支援制度のご案内
<http://www.fpri.hro.or.jp/shien/default.htm>

まずはお気軽にご相談ください。

（企業支援部 普及調整グループ 川等恒治）